

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.19 (2017.10.27)

平成29年度スローガン
おかげさまで140周年！新たな飛躍への一歩！
みんなで目指す顧客感動経営
Improve Customer Loyalty
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

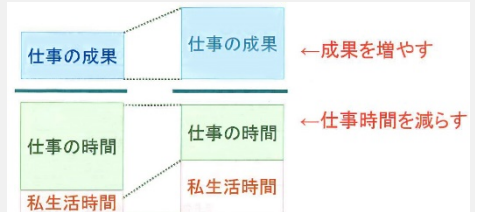
10月17日湯沢市役所において、「ゆざわイクボス応援団」結団式が行われました。基調講演はNPO法人ファザリング・ジャパン代表理事の安藤哲也氏で、～働きやすさと働きがいのあるイキイキ職場の作り方～というテーマでした。湯沢市版イクボス企業同盟加入事業所として、当社をはじめ21事業所が登録されました。イクボスについては今年度の経営方針にも明記しておりますし、概要については本紙でも何度か紹介しましたがもう一度おさらいすると・・・。



イクボスとは・・・

1. 残業を極力少なくして休暇を取得しても、売上・利益を向上させるために業務効率を上げる経営者・管理職
2. 部下・組織を育てながら自らも仕事とオフの時間両方で自分育てができるボス
3. 部下のワークライフバランスを考え、キャリアと人生を応援しながら組織の業績も結果を出し、自らも仕事と私生活を楽しむボス

以上の様な定義が考えられますが、背景には家庭の在り方や働き方に対する考え方が変化しており、生産年齢人口の減少による人材確保の点からも極めて重要な取り組みと言えます。



安藤氏はバブル時代に六本木ヒルズにある企業で数百時間の残業をしていたと話していましたが、私も東京で働いている頃は毎日10時まで残業しておりましたし、カラオケでは「24時間戦えますか！」と歌っていました。時代は遷り「K A R O S H I」という言葉が英語圏で認定されるほど社会問題化し、大手広告代理店や放送局の社員が労災死認定されるなど、まさに働き方に対する社会の目が厳しくなっていることを、私たち全員が認識しなくてはなりません。

アベノミクスの新3本の矢は、①GDP600兆円②出生率1.8%③介護離職ゼロですが、これらを達成するためには「女性活躍・イクメン・イクボス」の三点セットが極めて重要であり、我々建設業界にとっても「働き方改革」は避けては通れない重要課題であると言えます。

全国まるごとどんエクスポ	全国建設災害	三浦様邸地鎮祭
8月4日に認定書を頂きました。二次検診未受診の方は早急に受診するようにしてください。社内禁煙や禁煙手当の支給も検討しています。	9月9日・10日に開催された能代おなごりフェスティバルに当社保有の絵灯ろう3基を貸し出しました。大勢の観光客が写真を撮っていたとのことで、大変喜ばれました。倉庫には大きな青森ねぶたが運ばれていました。	9月22日盛岡市で開催され、ユニオン建設からは福田社長、梶井・荒井・河合本部長他幹部の方々が出席されました。社長からは、安全の確保・人材確保が課題との話がありました。